

I. 教師海外研修の概要

【教師海外研修とは】

◆はじめに

教師海外研修は、昭和 40 年度(1965 年)に移住事業の理解促進のために南米を中心に高校教師向けの海外研修として始まりました。その後、小学校・中学校の教員も対象とし、現在まで約 3,700 名が参加しています。2003 年以前は、JICA が全国の教員を対象に本研修を実施しておりましたが、2004 年度のエジプト派遣より JICA 北海道単独で本研修が開始されました。以降、カンボジア・タンザニア・ネパール・セネガル・スリランカ・キルギス等に約 200 名の教員を派遣しております。新型コロナウイルス感染症による影響により、本研修は 2019 年度以後、実施を断念せざるを得ない状況に追い込まれました。その後、2 度の道内での教師国内研修を経て、2023 年度は 4 年ぶりに従来の教師海外研修として実施いたしました。また 2024 年度から、道内学校の夏休み延長を考慮して、例年冬に実施していた現地研修を夏へ変更しました。今年度は昨年に引き続き夏に実施し、水谷由美アドバイザーと D-net の東峰宏紀アドバイザーを迎え、学びを深めました。

◆JICA 教師海外研修の目的

JICA は国際協力事業を通じて培った経験や人材、ネットワークを活用し、諸外国との関係や異文化理解等について、ますますグローバル化する教育活動に協力しています。

本研修は、国際理解教育や開発教育に関心を持つ教員を対象に、国際理解教育セミナー等の国内研修と、開発途上国への海外研修を組み合わせ実施し、開発途上国の置かれている現状や国際協力の現場、開発途上国と日本との関係に対する理解を深めます。その成果を学校の教育現場での授業実践等を通じて参加者に次代を担う児童・生徒の教育に役立ててもらふこと、また研修参加後に JICA と協力し、教育現場で国際理解教育や開発教育を推進する中核となるような人材を育てることを目的に実施するものです。

◆JICA 北海道教師海外研修 実施体制

主催：独立行政法人国際協力機構 北海道センター（JICA 北海道）

後援：外務省・文部科学省・北海道教育委員会・札幌市教育委員会

協力：北海道開発教育ネットワーク（D-net）

国内研修運営：公益社団法人 青年海外協力協会（JOCA）

◆研修の流れ

海外研修の効果を高めるため、訪問国への理解を深めるための情報提供等を目的とした 2 回の国内での事前研修と、研修の成果を生かした実践的な指導案作りを目的とした事後研修を実施しています。また、これらの研修と国際理解教育セミナーとを組み合わせることで、授業づくりに必要な手法の習得や研修成果の発表の機会を提供し、他の教員とも共有することで、実践者のネットワーク作りを進めていきます。

日程	内容
(2025 年 4 月)	(オンライン説明会)
6 月	研修参加決定通知の送付
6/21・22	【第一次事前研修】 JICA 北海道(帯広) (詳細は P14~) ・ JICA 教師海外研修オリエンテーション (動画) ・ モンゴル概要、研修の流れ、参加型手法の授業体験、モンゴル人との交流、チームミーティング (ミニ授業、テーマ決め)、旅程確認など
6~7 月	【事前学習】 ・ 研修先 (モンゴル) 基礎情報収集とミニ授業作成
7/19・20	【第二次事前研修 兼 国際理解教育セミナー実践編】 (P18~) 北海道立道民活動センター かでる 2・7 / JICA 北海道(札幌) ・ 視察先について、ミニ授業発表、参加型手法の授業体験、チームミーティング (視察先、交流案) など

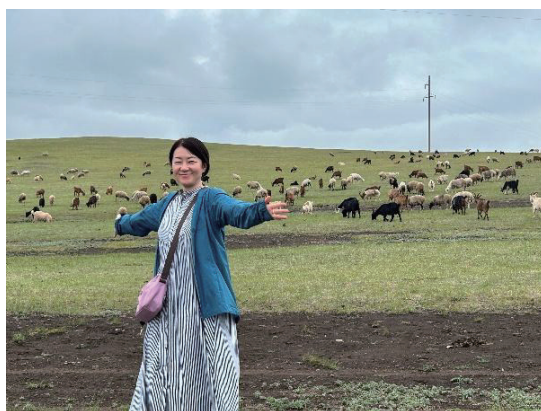
<p>8/2～8/10</p>	<p>【モンゴル海外研修】 (P24～)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各研修先訪問 ・研修中の情報収集活動、指導案枠組み作成に係る意見交換 ・1日のプログラム終了後の振り返り、情報共有 <div data-bbox="358 443 1339 661" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【帰国後作業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収集した情報の整理と共有 ・研修日記の作成 ・アドバイザーからの助言を踏まえた指導案（第1稿）の作成 </div>
<p>9月 9/13・14</p>	<p>【事後研修】 JICA 北海道(帯広) (P33～)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導案作成に係る参加者間の意見交換、アドバイザーによる助言 <div data-bbox="358 874 849 955" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>※指導案（仮完成版）を提出</p> </div>
<p>10月～</p>	<p>【各校での実践授業の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アドバイザー/スタッフによるモニタリング ・ホームページ等実践例を掲載 <div data-bbox="358 1196 1263 1276" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>※実践授業を基に、指導案完成版（実践報告書）を作成</p> </div>
<p>11/29・30</p>	<p>【成果報告会 兼 国際理解教育セミナー共有編】 (P36～) JICA 北海道(札幌) 対面 / オンライン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本研修の概要発表 ・模擬授業体験、教材紹介セッション ・研修全体を通しての振り返り
<p>2026年 1～3月</p>	<div data-bbox="358 1735 1045 1855" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【指導案完成版（実践報告書）の提出】 実践報告書集の作成、ホームページに掲載</p> </div>

◆開発教育アドバイザー紹介

本研修では、国際理解教育の実践者として2人のアドバイザーの方からご指導・ご助言をいただきながら学習指導案の作成、授業実践を行いました。

アドバイザー：JICA 北海道（帯広）開発教育アドバイザー 水谷 由美 氏
清水町立御影中学校 教諭

2003年、JICA 教師海外研修でガーナに派遣され、開発教育に出会い、授業実践（自主開発教材）を積み重ねている。2006年～2008年、外国教育施設日本語指導教員派遣事業（文科省派遣）において、カナダ・アルバータ州の公立高校に派遣され、カナダ人生徒に日本語・日本文化や開発教育を指導した。2012年、ESD 日米教員交流プログラム（ユネスコ・フルブライトジャパンによる派遣）で、持続可能な開発のための教育（ESD）を共通のテーマとし、日米間で教員の相互交流、意見交換、共同研究を行った。2020年、長期社会体験研修にて JICA 北海道（帯広）道東業務課に1年間勤務し、2021年から JICA 帯広開発教育アドバイザーとして兼職。2023年度キルギス研修、2024年度ザンビア研修にて JICA 北海道教師海外研修のアドバイザーを務める。



雄大なモンゴルの自然と水谷アドバイザー

アドバイザー：北海道開発教育ネットワーク(D-net)代表 東峰 宏紀 氏
石狩市立双葉小学校 校長 / 石狩管内国際理解教育研究協議会副会長
/ 日本国際理解教育学会会員

2002年、在外教育施設派遣教員として在チェコ大使館附属プラハ日本人学校赴任。2006年には北方圏センター開発教育ファシリテーター養成事業海外研修（カンボジア・ベトナム）に参加。2007年、2010年には日本国際理解学会において研究の発表をしている。また、科学研究費助成事業（日韓中の協働による相互理解のための国際理解教育カリキュラム・教材の開発）の研究にも参加している。2013年からは長期社会体験研修にて JICA 北海道市民参加協力課勤務。2015年度には教師海外研修（エチオピア）にてアドバイザーとして同行。また、北海道開発教育ネットワーク（D-net）の代表を務める傍ら、地雷問題を考える「カンボジアの子どもたち」など、自主開発教材も多数発表している。



遊牧民の住居・ゲルの前に立つ東峰アドバイザー